

国際理解出前講座

カンボジアの子どもたち ～国際協力って何？～

2月27日（火）山陽中学校の1・2年生約560名を対象に、国際理解出前講座「カンボジアの子どもたち～国際協力って何？～」を実施しました。講師は、カンボジアの日本語学校への支援や井戸の寄付などを長く続けておられる山口文代さんです。



カンボジアには世界遺産アンコール遺跡群があり、世界中からたくさんの観光客が訪れています。日本や姫路との共通点も交えながら、現在のカンボジアの様子を紹介されました。また、クメール語のあいさつや数字の読み方の紹介では、みんなで復唱し大いに盛り上りました。

講座の後半は、カンボジアを語る上で避けて通れない地雷の話です。山口さんからは「目を背けたくなるような写真だけど、しっかり見てほしい」と声がかかりました。内戦によって多くの命が奪われ、地雷が残されました。いまだにその地雷によって手足を失い、厳しい生活を強いられる人々が多くいます。

それまで盛り上がっていた生徒たちも、カンボジアの子どもたちが直面している現実を知り、真剣な様子で山口さんの話に聞き入っていました。

本当の国際協力とは何か、それはただお金を寄付するだけではありません。子どもたちが教育を受け、大人になつたら働いてお金を稼げるような支援が必要です。日々の学校生活で「なぜ勉強しなければならないんだろう」という疑問を持っている生徒もきっと、教育の大切さに気づき、国際協力の難しさを感じたことだと思います。

